



女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報

# ウィメンズブックス

New8号 2003年2月25日

ウィメンズブックストア ゆう 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F

## 目次

- 新刊ピック・アップ 新刊本の中でも特にお勧めの本をご紹介します ..... (1)
- 著者インタビュー 『ジェンダーの語られ方、メディアのつくられ方』の著者諸橋泰樹さんに聞く ..... (2)
- 最新刊情報 新刊本を解説付きでご紹介しています ..... (3)
- ミニコミ・ミニコミ ウィメンズブックストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です ..... (13)
- HOT・FILE 会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください ..... (14)
- 特集 『スウェーデン便り』 レグランド塚口淑子さん ..... (15)
- ウィメンズブックストア TOP5 (11~1月) ..... (16)
- Women's Booksからの風 『ウィメンズブックス』のニュース・お知らせなどのページです ..... (16)

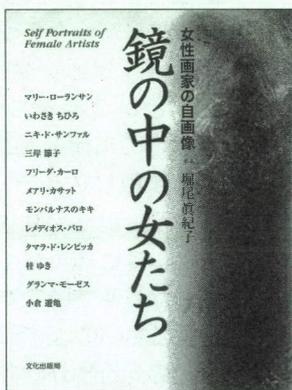
(本誌内で紹介している価格は、ご注文の際の便宜上、消費税5%を含んでいます)

## 新刊ピック・アップ

### 『鏡の中の女たち——女性画家の自画像』

堀尾真紀子 文化出版局 2002年12月 1995円

歴史上、女性画家が圧倒的に少ないことはよく知られている。今ではジェンダーの視点で美術史が読み直され、その理由も次々と明かされてきた。今回、近代から現代にかけて活躍した女性画家で自画像を描いている12人を挙げるのは、やはり難航したという。とりあげられているのは、マリー・ローランサン、いわさきちひろ、ニキ・ド・サンファル、三岸節子、フリーダ・



カーロ、桂ゆき、グランマ・モーゼス、小倉遊亀ほか世界的な画家たち。

彼女たちは、多くの困難を克服して才能を豊かに開花させた。この社会への違和感をそれぞれいろんなかたちで撥ね退けて生きた個性的な人たちが、その波乱の人生や魅力的な人物像を、達者な文章で生き生きと描き出した評伝がとってもいい。紙幅の関係だろうか、短すぎると残念な項もあるほどだ。

シュールレアリズムのレメディオス・バロも、男性中心主義に悩まされたこと知って驚いたり、キキやグランマ・モーゼスの自画像を愉しんだり。彼女たちが描いた自画像はカラーで掲載されているが、モノクロのポートレート写真も収録されている。興味深くいろいろに愉しめる本だ。著者は、フリーダ・カーロの研究家でもある。(T・N)

### 『高校生のジェンダーとセクシュアリティ…自己決定による新しい共生社会のために』

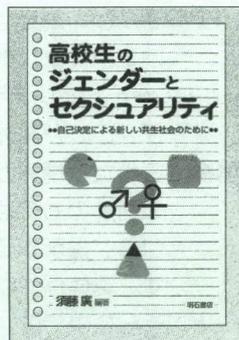
須藤廣編著 明石書店 2002年10月 1575円

調査やケーススタディ、統計データから、現代日本の高校生のジェンダー、セクシュアリティについての特徴を描き出している。

基本となっている視点は、「自己決定」。第三章「高校生のジェンダーとセクシュアリティの現状」では、北九州市女性センター・ムーブの2000年度女性問題調査研究事業の調査を使って、現代高校生男女がセックスのリスク認識に関してきわめて無防備で、甘く見ていることを示し、性教

育のジェンダーバイヤスを論じた上で、思春期の性の自己決定をつらぬくための方策が提案されている。提案は、避妊法や性感染症の教育の必要性・方法から、コンドームの保険適用などのきわめて具体的なもので、多岐にわたる。

調査をしてみると、「日本の若者は、このままではちょっと『マズイぞ』」ということがわかるのだそうだ。その感触を第一歩として、さあ、これから。(Y・M)



『写真、時代に抗するもの』

笠原美智子著 青弓社 2002年11月 3150円

本書は、あふれるほどに供せられるマスメディアの映像に対峙する、「時代に抗するものとしての写真」の「解説」を集めたエッセイ集である。東京都現代美術館学芸員である著者が企画した写真展に多くを負っている。

例えば、御蔵美子の等身大のヌード写真「TOKYO GIRLS」。作品が声高に「フェミニズム」を叫んでいるわけではない。しかし著者はそこに、「見る男」「見られる女」というヌード写真の歴史における「視線の非対称性」への告発を感じ取り、私たちに提示する。「性に対して過剰な思い入れに満ちた偏見を払拭した、東京に住む風俗の女性」たちが「服を着ないでカメラの前にたつ」写真…これを発掘し、企画展にまで高めていくのは、学芸員としての著者の「時

代に抗するまなざしの力」に他ならない。

例えば、平野正樹の風景写真「人間のゆくえ」。眩く美しいサラエボの光から覗くのは、焼け爛れたトタンやガラスの砕け散った窓枠。光が美しくれば美しいほど、そうした光景を作り出した現実があぶりだされ、「空爆する側」の映像の豊かさや「される側」のそれとの「非対称性」を際立たせる。

公立美術館で、これだけの企画ができ、これだけの解説が書けるのだ。企画者の視点の確かさに感動する。「女性センター」の企画担当者の方にも、お薦めしたい本である。

(Y・M)



『ジェンダーの語られ方、メディアのつくられ方』

諸橋泰樹著 現代書館 2002年12月 2415円

ジェンダー視点からのメディア研究は、日本でも70年代以降、女性学における重要分野として進められてきた。その中心的一角を担ってきた著者の、ここ数年の論文を取めたのが本書である。

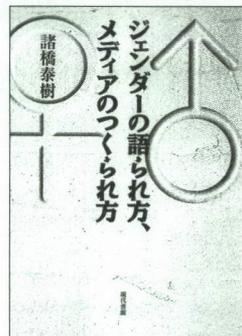
テレビ、新聞、ラジオ、雑誌、書籍、映画、ビデオ/DVD、CDなどの従来型(?)に、インターネット・携帯電話などによるWEB、その他諸々が加わって、私たちは「メディア漬け」状態。だからこそ、この分野がフェミ・バッシングの対象にも舞台にもなり、送り手・受け手双方

のメディアリテラシー獲得の重要性の認識が繰り返されたりもする。

本書で中心になっているのは、著者が国や自治体の男女共同参画政策にかかわる中での研究報告。自治体広報におけるジェンダー表現やカナダの取り組みなども平易な記述で述べられており、最近の動向を概観するのに最適である。

「ジェンダーとメディア」を学ぶに分かりやすい一冊として、お薦めしたい。

(Y・M)



著者インタビュー 第8回

『ジェンダーの語られ方、メディアのつくられ方』の著者

諸橋泰樹さんに聞く

(フェリス女学院大学教授)

— : ジェンダー視点からのメディア調査・研究やガイドライン作成などの施策展開は、確実に進んでいるように感じます。しかし、その割には、肝心のマスメディアへの浸透がもうひとつ…の気がするのです。

諸橋 : そうですね。でも、メディアで呼応する動きもありますし、効果は出始めていると期待したいです。表現の分野には法律や行政の直接的な介入はなじみませんし、結局はオーディエンスが地道にはたらきかけていくより他ありません。

— : メディアリテラシー教育が重要になるのですが、これが案外難しいです。そのポイントは?

諸橋 : これだけ情報が溢れている時代ですから、メディアの話そのものは受け入れられやすいはずですが、ですから、提示する切り口や参加方法を工夫することで。具体例やワークショップなどで。

— : そんな中での、ジェンダー施策へのバックラッシュ

です。

諸橋 : 「表現」の分野は重要ですし話題性がありますから、狙われます。バックラッシュ側は、例えば「ジェンダーを考える会」という会をつくるなど、今までの市民運動の戦略をそのまま取り込んでいます。バックラッシュの動きも市民運動なのですから、考え方としては認めなくてはならない。その言説は単純でわかりやすいですから、たたかにくいんですね。

— : 一番こわいのは、行政が腰を引いてしまうことです。行政の刊行物が回収されたりする「実害」も出ているわけですし……

諸橋 : 「お役所仕事」でほどほどにしておこうという向きもありますが、多くの担当者はがんばっています。ただ、庁内や首長、市民など周囲の支えがなく、男女共同参画の部署のみが孤軍奮闘しているところもあるようで、その場合は大変です。

— : 市民の力が重要になるのでしょうか。

諸橋 : 長い目でみたら、「正義は我にあり」なのです。ですから、マス・メディア、学校、市民運動、大学などのネットワークを強めて、毅然と進んでいくことです。



(聞き手 森屋裕子)

## ★最新刊情報★

フェミニズム・女性学…… (3)	からだ…… (6)	自伝・評伝…… (11)
仕事…… (4)	セクシュアリティ…… (7)	高齢・福祉…… (11)
法律・政治・政策…… (4)	セクハラ・暴力…… (7)	平和・開発・エコロジー…… (12)
家庭・家族…… (4)	文学・エッセイ・芸術…… (8)	資料…… (12)
子育て・教育…… (5)	女性史・歴史…… (11)	雑誌…… (12)



### 〔フェミニズム・女性学・男性学〕

#### 『アメリカ教育史の中の女性たち ジェンダー、高等教育、フェミニズム』

坂本辰朗著 東信堂 2002年10月 3990円  
大学教育におけるジェンダー問題を考えるときには、「高等教育への女性の参入」という側面だけでなく「もともと男性モデルである高等教育が、男女双方にとって善いか」の考察も必要だという。

#### 『女は何を欲望するか?』

内田樹著 径書房 2002年11月 1890円  
反フェミニズム的解釈を「父権的イデオロギー」というラベルはりによって切り捨てる「理論の過剰適用」がゆえに、「フェミニズムは思想的役割を終えた」とする筆者が、今回は文学論、映画論から「宿敵フェミニズム」(帯の言葉)に迫っている。それにしても、この内容に対して、なぜ、こんな「売らんかな」の書名をつけるのか。

#### 『女らしさ・男らしさ ジェンダーを考える』

森永康子著 北大路書房 2002年10月 1260円  
『ジェンダーの心理学』の著者が、中・高校生向きに、「女らしさ・男らしさ」について書いている。

#### 『ことばと人権 人権学習ブックレット⑤』

中川喜代子著 明石書店 2002年11月 840円  
「差別表現」は、「禁句集」に従って言い換えればそれですむというものでもない。事例に富んでいて興味深いブックレット。

#### 『ジェンダーとアメリカ文学 人種と歴史の表象』

原恵理子著 勁草書房 2002年11月 2730円  
ジェンダーとエスニシティをキーワードに、アメリカ文学に切り込んでいる。『「有色人の女性」の「声」と歴史確認』(松本悠子)など。

#### 『ジェンダーフリーの時代へ 増補版 家政学原論・生活経営学』

百瀬清子著 創成社 2002年10月 2310円  
『家政学原論』のテキスト。ジェンダー視点を入れて増補した。

#### 『女性キリスト者と戦争』

富坂キリスト教センター編 行路社 2002年12月 2730円  
男性キリスト者と同様、女性キリスト者の多くが15年戦争に加担していった。そのプロセスを分析している。戦争が始まるうともしている今は特に、ナショナリズムから自由になることの難しさを実感する。

#### 『司法における性差別 司法改革にジェンダーの視点を』

日本弁護士連合会 明石書店 2002年10月 1890円  
法律そのものにも、裁判等の司法作用の過程にも、「司法におけるジェンダーバイアス」には根深いものがある。「司法改革」にこそ、ジェンダーの視点が必要だ。

#### 『生命科学の近現代史』

廣野喜幸 市野川容孝 林真理編 勁草書房 2002年10月 3570円  
近現代における生命科学のテーマを複合的視点で追っている。「生命学とフェミニズム科学論」(高橋さきの)もその一章。

#### 『津田梅子の社会史』

高橋裕子著 玉川大学出版部 2002年12月 2730円  
津田梅子が女子英学塾を建学するまでの軌跡を、女性史、家族史、教育史等の社会史の視座から論じている。梅子とフェミニズムの接点など、興味深い論考が並んでいる。



#### 『どうにもとまらない歌謡曲 70年代のジェンダー』

舌津智之著 晶文社 2002年11月 1995円  
ピンク・レディ、阿久悠、桑田佳祐…。懐かしい70年代の歌謡曲を読み解くと、その結果サブミナルに蓄積される言語が浮かび上がってくる。「歌謡曲は日本最強の思想」なのである。

#### 『日本近代女性運動史 広島県を中心にして』

今中保子著 溪水社 2002年11月 5250円  
1920年代からの広島県の女性運動の歴史をたんねんに追った論考が、並んでいる。15年戦争をめぐる翼賛の動きの論述は特に読みごたえがある。

#### 『日本近世ジェンダー論』「家」経営体・身分・国家

長野ひろ子著 吉川弘文館 2003年1月 7350円  
百姓身分のジェンダー分析、近世農村における男性性の集団化と権力作用などを新しい視点で説く。

#### 『比較文化研究 ジェンダーの視点から』

原ひろ子著 日本放送出版協会 2002年4月 3150円  
「ジェンダー」を分析軸として、各文化を比較研究し、社会変動のプロセスを論じている。いろいろな文化にジェンダー視点から肉薄することで、自分の文化のジェンダーがみえてくる。

#### 『福祉と人権』

松本峰雄著 明石書店 2002年11月 2625円

#### 『不純異性交遊マニュアル』

速水由紀子 宮台真司著 筑摩書房 2002年11月 1575円  
“トークバトル”と銘打たれた速水由紀子と宮台真司の「愛と性」についての対談集。“蛇足ながら、書き始めたときには事実婚関係だった二人だが、出版時には友達関係に戻ったそうだ。

#### 『恋愛できない男たち』

速水由紀子著 大和書房 2002年11月 1680円  
ロリコン、マザコン、DV男、オヤジ病、マグロ男…数えればきりがないが、要するに恋愛など出来ない男がほとんど。女性よ、男と恋をしようなどと思うな。ジャーナリストイックな書き方ではあるが、共感する女性も多いのでは。

『私らしい生き方を求めて 女性と生涯学習』

岩崎久美子 中野洋恵著 玉川大学出版部 2002年11月 2940円  
自分自身で脚本を書き、多様なライフスタイルを選びとり、デザインしていくために、エンパワーメントしていこう。

〔仕事〕

『案ずるよりワーキングマザー エル編集者の育児日記』

弓山奈穂実著 アシエット婦人画報社 2002年11月 980円  
ファッション誌の編集者の妊娠、出産、子育てエッセイ。「案ずるより…」に到達するまでのあれこれ。

『おうちdeおしごと大図鑑 インターネットで超主婦宣言』

肥後紀子著 主婦の友社 2002年 11月 1575円  
在宅ワーク、SOHOスタイルで仕事をしたい人のための実用情報付きの手引き書。

『女の資格、特技活用大事典 KAWADE夢ムック』

河出書房新社 2002年11月 820円

『協同で再生する地域と暮らし 豊かな仕事と人間復興』

日本経済評論社 中川雄一郎監修  
農林中金総合研究所編 2002年10月 2310円  
女性の手による、コミュニティの社会変革、活性化に、著者は望みを託す。

『サステナブルな働き方 女性労働研究 No.43』

女性労働問題研究会編  
青木書店 2003年1月 1575円  
女性労働者が働きやすいサステナブル(持続可能)な社会システムを探る試み。



『女性の仕事全ガイド 2004年版』

成美堂出版 2003年1月 1260円

『共働き夫婦がトクする本 ネットちゃんファミリーの(得)生活レシピ』

高木隆司著 こう書房 2002年12月 1365円  
パートからフルタイムに踏み出そうというとき、ドンと背中を押してくれるかも。

『働く女性 平等と平和を求めて』

大羽綾子著 婦人労働研究会編  
ドメス出版 2002年11月 3255円  
日本の女性労働運動の草分け的な存在である著者の50年に及ぶ活動の軌跡。「保護か平等か」など女性運動史としても興味深い。

『めざせワーキングママ 働く女性の妊娠・出産・哺育ノート』

清川尚著 自由企画出版 2002年10月 1575円

〔法律・政治・政策〕

『あなたもなれる! 市議会議員』

五十嵐佳子 小石川百合著 バジリコ(株) 2002年10月 1680円

『子育て支援策の論点』

清家篤 岩村正彦編 社会経済生産性本部生産性労働情報センター  
2002年11月 2100円

『男女平等と経済発展 世界銀行政策リサーチレポート』

世界銀行著 関本勘次他訳  
シュプリンガー・フェアラーク東京 2002年11月 3360円  
男女平等化が貧困から国民を救う開発戦略として注目をされている。社会規範等にも目を向けた総合的なリポート。

『ハンドブック 市民の道具箱』

目加田説子編 2002年11月 1680円  
情報公開制度、DV被害者の支援制度、地域通貨など、市民を主体とした社会を実現するための72の「社会的道具」のあれこれが紹介されている。道具を使いこなすためのパワーが必要になるとの認識もさせてくれる。



『スウェーデンはなぜ少子国家にならなかったのか』

竹崎孜著  
あけび書房 2002年11月 1890円  
女性が男性と肩を並べて働く社会になりつつあるスウェーデンで出生率が高くなったのは、国民の政治姿勢に負うところが大きい。



『ハンナ・アーレント入門』

杉浦敏子著 藤原書店 2002年12月 2520円  
再評価が著しいユダヤ人女性政治思想家ハンナ・アーレントについて、生涯の軌跡を追う思想の解説をこころみている。

『もう男だけに政治はまかせられない』

田嶋陽子著 オークラ出版 2003年1月 1500円  
議員は芸者、社民党はヒモという著者の国会報告と議員活動。常に問題の根っこにある女性差別を田嶋節でガンガン語る。

『47人の挑戦 ドキュメント地方政治』

(財)市川房枝記念会編  
(財)市川房枝記念会 2002年11月 1365円  
市川房枝政治参画センターで学んだ47人の選挙運動と議会活動。地方政治に挑んだ女性たちが、熱き思いで語る。



〔家庭・家族〕

『家事する男の作り方』

百世瑛衣乎著 出版文化社 2002年10月 1365円  
現実に困っている「妻」が読むと、タメになることもいくつか。

『家族 世紀を超えて』

比較家族史学会編 日本経済評論社 2002年11月 2940円  
進行する「近代家族」の変化——「家族の個人化」「家族機能の外部社会への移譲」等——をめぐり、各視点から論じられている。

『家族を容れるハコ 家族を超えるハコ』

上野千鶴子著 平凡社  
2002年11月 2310円  
「家族」が多様化している現在、1951年に作られたモデルでは、住み手と住まいのミスマッチが起きていると指摘。建築を社会学するというエキサイティングな住居論再考。



『教育と扶養 日本家族史論集10』

片倉比佐子編 吉川弘文館 2003年2月 6615円

## 『国際結婚ハンドブック 第4版 外国人と結婚したら…』

国際結婚を考える会編著 明石書店 2002年10月 2100円  
「国際」結婚をして、住むところがたまたま日本だった、だけでタイヘンな手続きや条件があるようだ。

## 『婚姻と家族・親族 日本家族史論集8』

義江明子編 吉川弘文館 2002年12月 6615円

## 『相続と家産 日本家族史論集9』

永原和子 義江明子編 吉川弘文館 2003年1月 6615円  
財産分割の方法と家の存続の歴史から見る「家族」。

## 『「短命結婚」の時代 スターター・マリッジ症候群』

パメラ・ポール著 黒川由美訳 原書房 2002年12月 1995円  
「スターター・マリッジ」とは、5年以内に破局を迎える結婚のこと。その実態レポート。

## 『恋愛と性愛 シリーズ 比較家族第Ⅱ期』

比較家族史学会監修 服藤早苗他編  
早稲田大学出版部 2002年11月 3675円  
「求め合ってはいけない性関係」と「求め合ってよい性関係」を区別するのが「家族」のはじまりとするならば、性をめぐる家族の問題は、時代や民俗で異なっているはず。

## 〔子育て・教育〕

## 『青木パパの育児伝説』

青木武紀著 祥伝社 2002年10月 1470円

## 『育児保険構想 社会保障による子育て支援』

鈴木眞理子編著 筒井書房 2002年11月 1680円  
なぜ育児保険が必要なのか、保育サービスも含めた育児保険の提案、海外の育児支援策など。

## 『可愛がられるために来た 子どもと暮らせば大人が育つ』

松井るり子著 学陽書房 2002年10月 1680円

## 『カッとなって子どもを叩かない法』

渡辺康鷹監修 渡辺ミサ著 学陽書房 2002年10月 1575円

## 『子ども理解のウォッチング技術 学級教育の改革シリーズNo.2』

明石要一著 明治図書 2002年12月 2310円  
子どもウォッチングの手引き書。

## 『子離れ宣言 17歳観察日記』

吉田尚子著 創拓社出版 2002年12月 1260円  
17歳の息子をしげしげ観察してつけた「子育て日記」。親の子離れ準備日記ともいえよう。

## 『子どもが育つ地域社会 学校5日制と大人・子どもの共同』

佐藤一子著 東京大学出版会 2002年10月 2625円

## 『子どもの叫びがきこえますか』

竹前建治著 川辺書林 2002年10月 1470円  
児童相談所勤務歴24年のベテランカウンセラーが、子どもからのメッセージを綴っている。

## 『子どもの性役割態度の形成と発達』

相良順子著 風間書房 2002年12月 5040円  
性役割に関して、子どもがいつ頃どのように認知して発達す

るのか、発達心理学の面から明らかにした研究論文。

## 『言うことを聞かないのは、どうしてなの? スピリッツ・チャイルドの育て方』

メアリー・シーディ著 菅靖彦訳  
サンマーク出版 2002年12月 1680円  
副題にある「スピリッツ・チャイルド」とは、“すぎる”子ども。気性が激しく、かたくなで、敏感で、鋭くて、変化に適応するのが遅い、しかし、充分魅力的な子どもたち。

## 『学童保育実践の記 子どもたちと創った放課後』

及川房子著 川島書店 2002年11月 2100円  
著者は20数年前から学童保育指導員を務めている人。

## 『学童ほいく、はじめのいっぽ 親子であんしん』

子どものしあわせ編集部編 草土文化 2002年10月 1365円  
働きながら子育てする親とその子にとって、学童保育は力強い味方。

## 『キレイやすい子の理解と対応 学校でのアンガーマネジメント・プログラム』

本田恵子著 ほんの森出版 2002年10月 1890円  
キレイな心のメカニズムを理解し、感情をマネージメントしていくための教育プログラムが満載されている。

## 『子どもたちのグループホーム 地域小規模児童養護施設の実施に向けて』

高橋利一著 筒井書房 2002年9月 1365円  
「保護」から「自立支援」へ。

## 『子どもの権利と社会的子育て 社会的子育てシステムとしての児童福祉』

許斐有 望月彰他編 信山社 2002年10月 2730円

## 『子どもの権利と育つ力』

安藤博著 三省堂 2002年10月 2520円  
いじめ、非行、不登校などにかかわる現場での実践への手がかりを「子どもの権利」から提示している。

## 『思春期にがんばってる子』

明橋大二著 1万年出版 2002年12月 1365円

## 『自然育児のコツ』

山西みな子著 新泉社 2002年11月 1785円  
『母乳で育てるコツ』の姉妹編。妊娠生活とお産のコツ、母乳育児成功のコツ、自然育児のコツを説く。

## 『社会で子どもを育てる 子育て支援都市トロントの発想』

武田信子著 平凡社新書 2002年11月 819円  
子育て環境を変革していくのに必要なのは、困っている弱者の言葉を聞き取って支援環境をコーディネートするという発想である。

## 『少女はすぐ母になる 次の世代を生み育てるということ』

王瑞雲著 樹心社 2002年9月 1575円  
小児科医(漢方医)が会った数々の少女たち。「性」と「食」が危ない、という。こういう人たちの努力で、たくさんの少女たちが人生に踏み出していくのだけれど。

## 『父親だからできること』

毛利子来著 ダイアモンド社 2002年9月 1470円  
さらっと書かれていて、なかなかイイ。

## 『母と子の魔法の絆 いつだってそばにいる』

シャーリーン・ポーンビッチ著 沢木あさみ訳  
アンドリュウ・クリエイティブ 2003年1月 1680円

## 『ほんとうのお父さんになるための15章 父と子の発達心理学』

仁平義明著 ブレーン出版 2002年10月 1680円

『読んで学べるADHDのペアレントトレーニング  
むずかしい子にやさしい子育て』

シンシア・ウィットム著 上林靖子 中田洋二郎他訳  
明石書店 2002年3月 1890円  
ADHDの子をもつ親に、具体的なトレーニングの方法を提供している。さし絵入りで楽しく読める工夫も。

## 『ワーキングマザーの妊娠・出産・育児 育児と仕事、どっちも大切だから』

河野真理子 安藤博子著 成美堂出版 2002年11月 998円

## 【こころ・癒し】

## 『赤ちゃんこそがお母さんを作る ドルト先生の心理相談1』

フランソワーズ・ドルト著 村上光彦訳  
みすず書房 2002年12月 2940円  
ラジオ相談番組で語られたドルトさんの答えには、子育て中の人もそうでない人も耳を傾けたい温かさがある。「必ず理由があるものです」は、誰にでもあてはまる。

『海原純子の「このままではいけない!」と思ったら読む本  
ダイエット、人間関係、親との関わり悩みを答えます』

海原純子著 ダイアモンド社 2002年11月 1260円

## 『乙女セラピー 心とからだのヒーリングガイド』

横田直美著 インターメディカル 2003年1月 1365円  
「自由」なはずで、でも「お疲れ気味」の現代女性に捧げられたガイドブック。

## 『壊れない子どもの心の育て方』

ボリス・シリェルニック著 斎藤学監修  
KKベストセラーズ 2002年10月 1575円

## 『心に乗っ取られて ある精神障害者の手記』

森実恵著 潮文社 2002年8月 1260円  
義父の死をきっかけに33歳で精神分裂病を発病した著者の手記。

## 『子どものことは子どもの責任で』ドルト先生の心理相談3

フランソワーズ・ドルト著 宮崎康子訳  
みすず書房 2002年12月 2730円

## 『子どもよりも親が怖い カウンセラーが聞いた教師の本音』

諸富祥彦著 青春出版社 2002年10月 700円  
教師は子どもとの関係より親との関係に悩んでいるようだ。どうしたら、教師と親が連携できるのか。

## 『子どものこころ百科』

東山紘久著  
創元社 2002年12月 2940円  
子どもの心の問題について、家族がどうかかわっていったらいいのかがわかりやすく述べられている。



## 『心理カウンセラーをめざす前に読む本 「私でもなれるの?」と思っているあなたへ』

富田富士也著 学陽書房 2002年10月 1575円

## 『人生いつでもやり直せる 女性カウンセラーの相談記録』

谷島陽子著 社会評論社 2003年1月 1680円

## 『切ない…。』

香山リカ著 青春出版社 2002年11月 1155円  
精神科医である香山リカが、「誌上カウンセリング」と銘打って書き下ろしている。

## 『ナースのためのアサーション』

平木典子他編著 金子書房 2002年12月 1890円  
医療現場のコミュニケーションについて考える。ナースが出会う困難をアサーションで克服しようという。

## 『母子関係修復過程に関する実践的研究 祖母元型マトリックス・モデル』

田畑洋子著 風間書房 2002年12月 8925円

## 『被虐胎児のアートセラピー 絵からきこえる子どものメッセージ』

キャシー・マルキオディ著 角山富雄 田中勝博監訳  
金剛出版 2002年10月 3990円  
まだ発達途上だというアートセラピー治療の理論書。

## 『ほんとうのお父さんがいたのよ ドルト先生の心理相談2』

フランソワーズ・ドルト著 高山晶訳  
みすず書房 2002年12月 2940円  
精神分析医であると同時に女・母・妻であるというドルトさん。ユーモアあふれるアドバイスは、実際的である。

## 『もっと自分を愛してごらん』

キム・マクミラン著 河野万里子訳 文藝春秋 2002年11月 2000円

## 『願い 傷ついた翼が癒されるまで』

上坂香代子著 ウィンカもがわ 2002年10月 840円  
子どもが不登校になったとき、親ができることは。

## 『子どもの福祉とこころ 児童養護施設における心理援助』

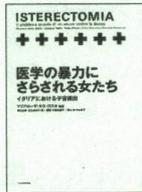
村瀬嘉代子監修 高橋利一編 新曜社 2002年12月 1995円  
児童養護施設のカウンセラーたちが、子どもの心の問題を論じている。

## 『〈私〉はなぜカウンセリングを受けたのか 「いい人、やめた!」母と娘の挑戦』

東ちづる著 マガジンハウス 2002年11月 1470円  
AD (アダルト・チルドレン) なのではないかと娘が思いあたたかことをきっかけに、娘とその母が親子カウンセリングを受けた。

## 〔からだ〕

『医学の暴力にさらされる女たち イタリアにおける子宮摘出』  
 マリアローザ・ダラ・コスタ編著 勝田由美 金丸美南子訳  
 インパクト出版会 2002年11月 2100円  
 イタリアにおける子宮摘出手術の実態を告発している。日本での「医学の暴力」の記憶もなまなましい。日本医療の問題点についても、解説されている。



## 『家庭の医学』

レベッカ・ブラウン著 柴田元幸訳  
 朝日新聞社 2002年10月 1365円

母をみとった日々を描いた「介護文学」。

## 『女性たちの医療革命』

日米メディカルシンポジウム事務局編  
 朝日新聞社 2002年11月 1155円

男性のからだを研究対象とし、その成果を「男性のミニチュアとしての女性」に適用したのが、西洋医学の歴史だという。それを改め、男女の性差に配慮した医療をめざそうとする。

## 『子宮筋腫 これだけ知ればこわくない!』

藤原潔監修 PHP研究所 2002年12月 1365円

## 『子宮筋腫 子宮内膜症 子宮腺筋症 あなたの答えが見つかる本』

佐々木静子 たんぼぼ著 双葉社 2003年1月 1575円  
 婦人科疾患の自助グループと、それをサポートしてきた医師の手になる、「女性のからだ応援本」。

## 『知っておきたい子宮の病気』

上坊敏子著 新星出版社 2002年11月 1260円

## 『女性外来が変える日本の医療』

対馬ルリ子著 築地書館 2002年10月 1575円  
 年齢によって大きく変わる女性のからだに対応した医療体制を作ろうと、女性たちが動きはじめた。女性医師が診療・相談を行うクリニックなどには希望が持てる。

## 『できちゃった! はじめての妊娠・出産』

扇内美恵監修 池田書店 2002年12月 1050円

## 『尿もれ治療がわかる本』

巴ひかる著 築地書館 2002年10月 1470円  
 「尿もれ(尿失禁)」はれっきとした病気なのに、女性は「泌尿器科」にはなかなか行かない(行きにくい)そうだ。

## 『“ほっ” とする生理痛の本』

清水直子 わたなべゆうこ著 今井理恵監修  
 築地書館 2002年12月 1260円

## 『モダン フィジシャン(内科系総合雑誌) vol.22』

新興医学出版社 2002年10月 2415円

特集 ウーマンズヘルスケア—思春期から老年期まで

## 『流産に泣かないで 不育症の原因と治療』

川原千佳著 主婦の友社 2002年11月 1260円

不育症とは、流産、死産などを繰り返す症状だという。

## 〔セクシュアリティ〕

## 『スカートをはいた少年 こうして私はボクになった』

安藤大将著 ブックマン社 2002年12月 1470円  
 競艇選手が性同一性障害を公表し、女子選手から男子選手に変わった。心と性の不一致で苦しんでいる人たちへの理解も少し進むのではないかと思うほど率直な、体験談。

## 〔セクハラ・暴力〕

## 『一生分のうれし涙 DVをのりこえて』

有紀理子著 文芸社 2002年11月 840円  
 夫の暴力から自分と子どもを守った記録。

## 『男はなぜ暴力をふるうのか 進化から見たレイブ・殺人・戦争』

マイケル・P・ギグリエリ著 松浦俊輔訳  
 朝日新聞社 2002年10月 2415円

「男の暴力」は、男の生理的自然だという。だから、「俺の方が強いんだぞ」と出てくる男にハト派的な戦略をとってもダメで、犯罪には死刑を含む応報刑、戦争には武装が必要なのだそうだ。当然異論も出るだろう。しかし、まずは読んでから反論してもいいかもしれないという本である。

## 『家族の暴力をのりこえる 当事者の視点による非暴力援助論』

味沢道明 小井香欧里 中村正著 かもがわ出版  
 2002年12月 2730円

児童虐待防止法やDV防止法施行後の課題として浮上している加害者への支援について言及している。

## 『緘黙の少女 親権代行者の記録』

八塩弘二著 奥平康弘解説 雅粒社 2002年11月 1050円  
 虐待されている子どもの親代わりとなった弁護士者の記録。主人公早苗の物語を通して、法律や福祉がみえてくる。

## 『子ども虐待の歴史と理論 明石ライブラリー45』

ブライアン・コービー著 萩原重夫訳  
 明石書店 2002年10月 5040円

子ども虐待の取り組みでは先進国であるイギリスの定番本の全訳。日本での政策的展開を進める上で、役に立つ本。

## 『ストーカー犯罪 被害者が語る実態と対策』

秋岡史著 青木書店 2002年11月 1680円  
 「ストッキング被害者の会」が行った調査結果等をもとに、被害者側からの実態にせまっている。

## 『続・施設内虐待 克服への新たな挑戦』

市川和彦著 誠信書房 2002年11月 2415円  
 前著に続き、障害児/者施設、高齢者施設、児童養護施設等での虐待に対する取り組み、通告制度、職員研修等について考察。

## 『ドメスティック・バイオレンスの法 アメリカ法と日本法の挑戦』

小島妙子著 信山社 2002年10月 6300円  
 「DV防止法」後の「配偶者からの暴力」への法的取り組み、アメリカと日本の法状況を綿密に検証した力作。

## 『ドメスティック・バイオレンス 女性150人の証言 痛み・葛藤そして自由へ』

原田恵理子・柴田弘子著 明石書店 2003年1月 2100円  
 外から見えない家庭という密室で繰り返される暴力の数々を、当事者の女性たち自身が初めて語る。150人のDV体験。

『なぜ男は暴力を選ぶのか ドメスティック・バイオレンス理解の初歩』

沼崎一郎著 かもがわ出版 2002年11月 600円  
なぜ男は暴力をふるうのかというと、それは、「暴力をふるうことを選んでいる」からである。

〔文学・エッセイ・芸術〕

『暁の聖歌』

吉屋信子著 ゆまに書房 2002年12月 1680円  
昭和初期、吉屋信子の少女小説と中原淳一の挿絵の組み合わせは「黄金コンビ」だったという。時代を超えた少女小説が信子没後30年を記念して出版された。

『あなたは主婦が好きですか？』

石川結貴著 中央公論新社 2002年10月 1470円  
メディアに登場する主婦、知識人のいう主婦、フェミニズムが論じる主婦、行政が言及する主婦…みんな違う、と著者は言う。現代妻のレポートを続けてきた「主婦である著者の描く主婦(像)」とは。

『悪女の玉手箱』

時実新子著 実業之日本社 2002年11月 1575円  
新子の本音の言葉をライブで聴いているような気のするエッセイだ。自分で悪女というが、どうして正直な悪気のない人である。

『茨木のり子集 言の葉3』

茨木のり子著 筑摩書房 2002年11月 2940円  
90年代の詩、エッセイ、訳詞が収められている。「言の葉」はこれで完結。

『いつ死ぬかわからないから 92歳・現役女医のちょっと一言』

小林清子著 栄光出版社 2002年12月 1365円

『IMAGE&GENDER vol.3』

イメージ&ジェンダー研究会著  
彩樹社 2002年11月 1050円  
2001年末日に49歳で夭折した千野香織さん(お茶の水大学客員教授)の追悼特集。いつもながらも、貴重な研究誌。



『海のオルゴール 新装版 子にささげる愛と詩』

竹内てるよ著 家の光協会 2002年11月 1365円  
竹内てるよの波乱万丈の人生と感動の詩で反響をよんだ書。著者は2001年亡くなったが、今回復刊された。

『8femmes 8人の女たち フォト・アルバム』

フランソワ・オゾン著 武者小路実昭他訳  
アーティストハウス 2002年11月 3032円  
8人の女優たちの写真から成る。著者は「アマゾネス」をイメージしたという。

『L文学完全読本』

斎藤美奈子著 マガジンハウス  
2002年12月 1365円  
今度は「L文学」だって。今までに定義されてこなかったけれど、今日本を席卷するのはL文学。リップの感受性を受け継ぎ、「女の子」感覚で書かれた小説をいうそう。250冊の「L」と作家26人のコラムは壮観。



『笑顔で乗り切る』

木の実ナナ著 講談社 2002年12月 1575円  
父親への複雑な思い、更年期障害のことなど。

『大阪娘、地球に迷う』

わかぎゑふ著 杞出版社 2002年12月 1470円  
いろんな「旅話」が詰まっているエッセイ集。アフリカ旅行も大阪での日常も、著者にとっては「旅話」になる。

『おいしく生きる 歯医者も配偶者も、選び直す勇気を!』

岡田弥生著 文芸社 2002年10月 1050円  
歯科医の書いた「患者学」。自分自身とまっとうにつき合うために、「歯医者と配偶者は主体的に選び取っていきこう」というメッセージは、ホンモノ。



『女歌の百年』

道浦母都子著 岩波書店 2002年11月 777円  
与謝野晶子から俵万智までの女性による短歌を、道浦母都子が解説している。作者とその解説者がおりなす、女性たちの生。

『女の書』

飯島太千雄著 NHK出版 2002年12月 2520円  
古今集から源氏物語の時代に隆盛を極めた女性文化。それ以前から、尼僧、采女などの女性たちは、国の文化の確立に深くかかわってきた。600年にわたる女性文化の考察。明治以降の書にも目を向けた。大変興味深い研究だ。書の写真が美しい。



『女の哲学 私のリハビリスポーツ実践記』

長手雅子著 健友館 2002年11月 1575円  
高校時代まで虚弱体質で親の保護下にあった女性が、40代にして大学院進学、スポーツウーマンに変身。競歩のマスターズ大会でメダルを獲得した。

『ウンブラ/タイナロン 無限の可能性を秘めた二つの物語』

レーナ・クルーン著 末延弘子訳 新評論 2002年10月 2625円  
現代フィンランド文学を代表するレーナ・クルーンの二つの作品『ウンブラ』と『タイナロン』が収められている。

『永遠の愛をつらぬいて 社会心理学者・南博との50年』

東恵美子著 大和書房 2002年11月 1785円  
南博は社会心理学の先駆的な学者。その1周忌にあたって、パートナーである新劇女優が、理想的な別居結婚から亡くなるまでの愛の姿を綴った。

『女は男のどこを見ているのか』

岩月謙司著 ちくま新書 2002年9月 756円  
こんなことまで書かれねばならないほど今の男はダメなのか。速水由紀子の本と対で読むと面白い。

『からだをいたわる服づくり 入院のときもおしゃれに』

森南海子著 未来社 2003年1月 1575円  
病んだとき、齢を重ねて動きが鈍くなったときなどにこそ、やさしい布づかひやいたわりの手法をもった服が必要なのだ。

『今日も怒ってしまいました。オンナの人生、笑ってスッキリ』

益田ミリ著 大和書房 2002年10月 1365円

## 『GRACE 安田千絵写真集』

安田千絵著 ワイズ出版 2002年9月 3990円

## 『聲のさざなみ』

道浦母都子著 文化出版局 2002年9月 1680円  
歌人道浦母都子が、独自の道を切り拓いてきた秋野不矩、岡部伊都子などの先輩女性10人にインタビューした。凛として生きる表現者である先達たちの生きざまが、まぶしい。

## 『子どもはどのように絵本を読むのか』

ヴィクター・ワトソン&モラグ・スタイルズ編 谷本誠剛監訳 柏書房 2002年11月 3675円  
『絵本論』といってよいのであろう。児童文学研究者がポストモダンの絵本を論じ、子どもがどのようにそれを読みとっていくのかを述べている。

## 『子どもとカップルの美術史 中世から18世紀へ』

森洋子著 NHKブックス 2002年10月 1260円  
ブリューゲル研究で国内外に名高い著者が、中世から18世紀に至る子ども観、恋愛観、結婚観の変遷を一般向けの本にした。絵画資料を駆使して解説している。絵もたくさん入っていて、面白く読める。

## 『衣を脱ぐヴィーナス 西洋美術史における女性裸像の源流』

C・M・ハヴロック著 左近洋子監修・訳 アルヒーフ発売 すずさわ書店 2002年9月 6090円  
女性ヌードを「表現」し「鑑賞」という伝統はいつ始まったのか？ ヌードの源流を探る新たな視点の美術史。

## 『小美代姐さん花乱万丈』

群ようこ著 集英社 2002年12月 1470円  
大正14年生まれの小美代さんは、産婆も驚く巨大児だった。

## 『これが佐藤愛子だ— 自讃ユーモアエッセイ集』

佐藤愛子著 集英社 2002年9月 2100円  
痛快なユーモアに満ちた全エッセイから秀作・傑作・珍作を精選した全集。

## 『寒川の女 (さんがわのひと)』

矢野弘著 郁朋社 2002年11月 1575円  
頼朝の乳母を務めた美子—小山七郎朝光の母の生涯。13世紀に91歳の長寿を全うし、小山氏の礎を築いた女性の物語。

## 『ザ・一葉 樋口一葉全一冊』

樋口一葉著 第三書館 2002年11月 1680円  
B5判3段組で樋口一葉の作品を全小説、日記、書簡、略年譜まで収録した。

## 『幸せではないが、もういい』

ペーター・ハントケ著 元吉瑞枝訳 同学社 2002年11月 1575円  
「母親が51歳で自殺した」事実を前に、息子は格闘する。ドイツの代表的作家であるペーター・ハントケの初期の代表作。

## 『シネマなお仕事』

森川みどり著 青心社 2002年11月 1470円  
映画を「観て」「しゃべる」のが仕事という著者の仕事についてのエッセイ集。

## 『SINGLETONS DIARY 頑張って生きてます、アタシ』

デジタル編 扶桑社 2002年10月 1300円

シングル女性たちが書き込む日記サイト「シングルトンズ・ダイアリー」よりの発信。

## 『人生案内 自分を育てる悩み方』

落合恵子著 岩波新書 2002年11月 777円  
著者が20年間担当している読売新聞「人生案内」欄の記録とそれにまつわるエッセイ。

## 『女が語る 人生これから』

NHK教養番組編 アスキーコミュニケーションズ 2002年10月 1260円  
阿木耀子、イルカ、落合恵子等、各界の女性10人が、「中年後」について語っている。

## 『世界一強い女。』

江口美幸著 (有)ラピュータ 2002年12月 1575円  
貧血気味の文学少女が、あまりの体力のなさに一念発起、極真カラテを始め、世界空手道選手権大会で優勝するまでになった。

## 『素肌で語り合しましょう 障害者の“生”と“性”を考えた』

小山内美智子著 エンパワメント研究所 2002年10月 1575円  
アルバイトのソーブランド嬢・竹田蘭と障害をもったおばさん・小山内美智子の間のメール交信という設定で展開される障害者の「生と性」。著者は、「札幌いちご会」で活動する障害者施設の代表。自ら障害者でもある。

## 『粗住感覚 女はラクに暮らす』

稲田深智子著 ユック舎 2002年11月 1575円  
一級建築士が書いた「ラクに生きる方法」。歯切れのよい文章が並ぶ。読んでいて、すっきりしてくる。おススメ本。

## 『祖母・白洲正子魂の居場所』

白洲信哉写真 世界文化社 2002年10月 2520円  
白洲正子が出会った西国巡礼、骨董、能。美しい写真と共に白洲正子の世界がよみがえる。

## 『短編女性文学近代 続』

渡邊澄子編 おうふう 2002年9月 2625円  
自足の「生」をもつことが今よりずっと難しかった明治から戦前にかけての時代、格闘しながら生きてきた女性作家たちの「生」を、ジェンダー視点から読み解いている。

## 『つめたいセックス』

真中優多著 新潮社 2002年10月 1365円  
「風俗」の仕事に渡り歩いた経験を綴った私小説。著者は『一条さゆりの真実』を書いたノンフィクションライター。

## 『テレビは輝いていた 放送時評1968年～1987年』

塩澤和子著 風媒社 2002年10月 2100円  
60年代後半から80年代、「情報の花」として確かに「テレビは輝いていた」。その時代に朝日新聞に著者が書き続けていた「テレビ評」をまとめたのが本書。いわゆる「女性の視点」を感じる。当時はもちろん現代にも通じる貴重な資料である。

## 『トクする女 みちづれのススメ』

わかぎゑふ著 中央公論新社 2002年11月 1523円  
わかぎゑふの最新エッセイ集。

『とびきり聡明な女たち 英知の言葉100年』

アンジェラ・B・フリーマン著 安藤優子監訳  
大和書房 2002年11月 1575円

100人の女性たちの、折々の素敵な言葉。

『トラウマ映画の心理学』

森茂起 森年恵著 新水社 2002年12月 1995円  
映画を題材に、心理学者が「トラウマ」を語っている。児童虐待についての「愛を乞うひと」、女性への暴力についての「噂の女」など。

『“敗北の豊かさ”からの出発 「津軽」で鮮烈な民主主義教育を受けて』

しま・ようこ著 津軽書房 2002年11月 1575円  
敗戦直後から移り住んだ津軽で、著者は戦後の「民主主義教育」を受けた。それは、「鮮烈な」体験だった。

『バックスが呼んでいる ワイン浪漫紀行』

本間千枝子著 文藝春秋 2002年11月 1890円  
定評のある食と酒の随筆家が、ワインを愉しく語る。

『母から母へ』

シンディウエ・マゴナ著 峯陽一/コザ・アリン訳  
現代企画室 2002年11月 2940円  
1993年米国からの女子留学生エイミーは、南アフリカで黒人青年たちに殺された。南アフリカの女性作家が、この事件を題材に読みごたえのある小説に仕上げた。

『母式田和子が教えてくれたこと』

式田恭子著 主婦の友社 2002年12月 1575円  
『死ぬまでになすべきこと』の著者式田和子さんの文化を娘さんが継承している。「女らしさ」も「男らしくすること」も母親から学んだという娘のエッセイ。

『晴れときどき猫背』

村山由佳著 集英社 2002年10月 1890円  
猫の〈真珠〉がやってきて、ムラヤマ家の生活は激変し、ついには引越して馬まで飼うことになる。痛快エッセイ。

『富士の月 竹内トキ子写真集』

竹内トキ子 東方出版 2002年10月 1890円

『Futo』

清川あさみ著 マドラ出版 2002年12月 4935円  
布を使ったテキスタイル作品を集めた写真集。観音開きの3面に写真集がそれぞれついている、面白いしかけの本。

『ぺこぺこ映画日記 1993～2002』

中野翠著 講談社 2002年12月 1995円  
掲載タイトル何と793本。この10年の映画を絵と文で紹介。短評が笑える、たのしい映画案内。

『日記のなかのアメリカ女性』

大井浩二著 英宝社 2002年12月 2730円  
家庭生活や南北戦争、大農園主、従軍看護婦など、19世紀のアメリカ日記文学に現れた女性を追っている。ごく普通の女性たちが書いた日記に、当時のアメリカ女性の日常生活がまなましく表れている。白人女性が中心なのは気になるが。

『ニッポンの男たち フランス女性が聞いたホンネの話』

ミュリエル・ジョリヴェ著 鳥取絹子訳  
筑摩書房 2002年11月 1995円

『猫と暮らす一人ぐらしの女』

ステイシー・ホーン著 青海恵子訳  
晶文社 2003年1月 1995円  
42歳、シングル、テレビの見過ぎ、仕事は不調…要するに「ミドル・クライシス(中年の危機)」にある著者が書いたエッセイ。

『無敵のバリアフリー旅行術』

おそどまさこ著 岩波アクティブ新書 2002年11月 777円  
トラベルデザイナーを名乗るおそどまさこが、自ら企画した熟年・高齢者・障害者の「バリアフリー旅行」について報告。

『山崎豊子問題小説の研究 社会派国民作家の作られ方』

鶴飼清著 社会評論社 2002年11月 4515円  
山崎豊子は確かに問題の多い作家である。盗用問題は一度ならず。彼女の戦争の捉え方、国家主義礼讃の物語づくり等、仕組まれた装置としての機能を問題にしている。

『闇の女王にささげる歌』

ローズマリー・サトクリフ著 乾侑美子訳  
評論社 2002年12月 1680円  
紀元60年、ローマ帝国を相手にケルト部族を結集して立ち向かった女王ブーディカの悲劇。支配者にとっては「反乱」、ケルトにとっては「聖戦」の残酷さ。

『ゆるゆるふっくり』

横井久美子著 新日本出版社 2002年10月 1575円  
シンガーソングライターである著者の最近のエッセイ集。

『レーニ・リーフェンシュタール 美の誘惑者』

ライナー・ローター著 瀬川裕司訳  
青土社 2002年10月 2940円  
「民族の祭典」の圧倒的な映像美で大変な評判をとったレーニの名を覚えている人は多いだろう。ナチズムとの問題、戦争責任、フェミニズム、彼女の芸術の魔力などを、その数奇な生涯と共に徹底分析した。



『恋愛以前』

今一生 北原みのり 小林エリカ 丸山あかね 藤本由香里著  
原書房 2002年12月 1575円  
今一生と気鋭の4人の女性作家が対話する。「恋愛以前の愛」について。

『ロラたちの青春』

石田甚太郎著 新読書社 2002年10月 2100円  
フィリピン言葉で「ロラ」とは老婆に対する尊敬語のこと。元従軍慰安婦をめぐる裁判を中心としたルポ。

『論集 石上露子』

松本和男編著 中央公論事業出版 2002年12月 2940円  
明治最終期の5年間に、すい星のごとく『明星』に登場し消えていった石上露子を、一線の露子研究者8人が論じている。時代に先んじすぎた思想がゆえに、その生涯は傷ましい。

『若きちひろへの旅 上・下』

平山知子著 新日本出版社

2002年11月・12月 上1680円、下1785円  
透明感ある、澄みきった絵で知られるいわさきちひろの若き日を、幼なじみである弁護士<sup>の</sup>平山知子が描いている。親しい間柄でなければ行きつかない心配りで、今までにない、いわさきちひろ像があぶり出されている。

### 『豊かに生きる』

朝吹登水子著 世界文化社 2002年11月 1680円  
フランス文学者、サガンやポーヴォワールの翻訳家として知られる著者の「生き方」を綴ったエッセイ。

### 『夢は待ってくれる』

芝山由美著 東京文献センター 2002年10月 924円  
32歳女性のフランス留学記。フランスで仕事をみつけるまで。

### 『私にとって書くということ』

三浦綾子著 日本キリスト教団出版局 2002年9月 1680円  
エッセイの中から「書く」をテーマにしたものを集めて収録。

### 『私の仕事』

緒方貞子著 草思社 2002年12月 1680円  
緒方貞子の90年代の日記、エッセイ、スピーチ等を集めたもの。コソボ、サラエボ、カンボジア、アフガン等、難民問題に取り組む姿が迫ってくる。

### 『わたしの呼び名は《まあもちゃん》 岩波フォト絵本』

文・写真 森山真弓 岩波書店 2002年11月 1785円  
法務大臣で、家庭では「まあもちゃん」と呼ばれている森山真弓の軌跡。ご本人撮影の家族写真で構成されている。

『「われ」の発見 鶴見和子・対話まんだら 佐佐木幸綱の巻』  
藤原書店 2002年12月 2310円

## 〔女性史・歴史〕

### 『石狩町女性史年表 町内資料に読む』

駒井秀子著 自然食通信社 2002年3月 1575円  
第一次資料に基づいた、実に緻密な年表。明治、大正、昭和の石狩町の女性たちの姿が、活字から飛び出してくる。

### 『京都の女性史』

京都橘女子大学女性歴史文化研究所編  
思文閣出版 2002年10月 2520円  
古代から近代まで、京都に関わりをもった多様な女性8人の生き方を描いている。

### 『娼婦と近世社会』

曾根ひろみ著 吉川弘文館 2003年1月 2520円  
遊女、芸者、熊野比丘尼<sup>びくに</sup>、夜鷹<sup>よたか</sup>、飯盛女<sup>めしもりおんな</sup>など、近世社会にはさまざまな「性」を商品化された女たちがいた。売買春を成り立たせてきた社会的構造には、現代に通じるものがある。

### 『信州女性史年表』

中村竜子編著 龍鳳書房 2002年10月 1890円  
明治から今日まで、信州で活躍した女性の足跡を追った労作。

### 『杉並の女性史 明日への水脈』

杉並区女性史編さんの会編著 ぎょうせい 2002年10月 1800円  
区制70周年を機に、都杉並区の女性たちの歩みが本になった。

### 『はじめて学ぶ日本女性文学史 古典編』

後藤祥子 今岡敏子他編著 ミネルヴァ書房 2003年1月 3150円  
江戸時代までの女性文学史を、環境・文化の視点からとらえている。

### 『歴史のなかの皇女たち』

服藤早苗編著 小学館 2002年12月 2940円  
天皇家に生まれた女性たち「皇女」を通して日本の歴史をみる試み。豊富に写真も挿入して、古代から江戸期までの皇女たちを検証する。

## 〔自伝・評伝〕

### 『開国の時代を生きた女からのメッセージ』

中西拓子著 碧天舎 2002年10月 1050円  
幕末に生まれ、1944年に没した祖母の足跡をたどった記録。

### 『甲斐和里子の生涯』

龍谷真智子著 自照社出版 2002年7月 2310円  
京都女子学園の創始者、甲斐和里子の評伝。

### 『加藤シヅエ凜として生きる 104歳の人生が遺したもの』

加藤シヅエ 加藤タキ著 大和書房 2002年12月 1785円  
104歳で逝った加藤シヅエの最晩年を、娘のタキが綴っている。痴呆の症状も含めて、「まっとうした」という言葉がびったりする「生」であった。

### 『悲しみにさようなら』

清水久枝著 北水 2002年9月 1575円  
50歳で聴力障害になった女性の自伝。

### 『絹子の革命』

白井絹子著 碧天舎 2002年10月 1050円  
著者は、結婚してから自然農法に取り組み、「ナチュラルリンク」という自然食品関連の会社を立ち上げた。

### 『心は泣いたり笑ったり マリーズ・コンデの少女時代』

マリーズ・コンデ著 くぼたのぞみ訳  
青土社 2002年12月 2310円  
カリブ海グアドループの裕福な黒人家庭に生まれた著者が宗主国に留学し、ポストコロニアルを発見し、「本物の自分探し」に進んでいく。

### 『泣いてもいい、人間ひとりじゃない DV、離婚、自立、そして福祉へ』

下平雅子著 講談社 2002年10月 1575円  
両親の離婚、早い結婚、DV、離婚、それらすべてを乗り越えて、高齢者、知的障害者向けの福祉事務所を設立した半生の記録である。

### 『望郷 日中歴史の波間に生きた清朝王女・川島廉子の生涯』

川島尚子著 集英社 2002年10月 2520円  
清朝の王女として生まれ、波乱の生涯を生きた本名愛新覺羅廉子の評伝を娘が書いた。

## 〔高齢・福祉〕

### 『エイジズム 高齢者差別の実相と克服の展望』

アードマン・B・パルモア著 鈴木研一訳  
明石書店 2002年9月 5250円

高齢化の進展により、エイジズムへの関心は高まりつつある。「究極の偏見」といわれるエイジズムであるが、中でも三重の危険である、「黒人女性高齢者」は問題である。

『こんな施設を選びなさい 安心できる老いのための最重要ポイント』

山井和則著 青春出版 2002年12月 892円  
老人介護施設とはどんなところか、施設を選ぶときのチェックポイント提言など。

『「誰でも社会」へ デジタル時代のユニバーサルデザイン』

関根千佳著 岩波書店 2002年11月 1890円

著者は日本IBMから独立し、情報のユニバーサルデザイン研究所を起業した人。専門知識と主婦経験、海外体験を一つにして、「これからの社会」をつくっていかうとする視点と実行力はすごい。



『mor モア あるデンマーク高齢者の生き方』

小島ブンゴード孝子著 (株)ワールドプランニング 2002年10月 1600円

題名の“モア”とはデンマーク語で「お母さん」のこと。「あるデンマーク高齢者」とは、著者の夫の母、つまり“モア”のことである。ライフクオリティを大切にするデンマーク人高齢者の生きる姿は、参考になる。

『60歳からをもっと楽しんで生きる 88の素敵な知恵と工夫』

佐橋慶女著 海竜社 2002年11月 1500円  
実践的「楽しんで生きる方法」。

〔平和・開発・エコロジー〕

『開発とWID 開発途上国の女性の現状と可能性』

森川友義著 新風舎 2002年10月 2100円  
途上国における開発の状況と女性の関係を書いている。内容に議論はあるが、前提条件と主張を明確に打ち出した、平易な仕上がりになっている。

『ガバナンスと人間開発

UNDP人間開発報告書2002』

『人間開発報告書2002』作成チーム著  
国際協力出版会 2002年10月 3990円  
人間開発には政治、すなわち多様性を前提とした民主主義の確立が極めて重要であることがわかってくる。



〔資料〕

『子育て・教育・子どもの暮らしのデータ集 2002年版』

(株)生活情報センター編  
(株)生活情報センター 2002年10月 15540円

『男女共同参画白書のあらまし 平成14年版』

財務省印刷局 2002年9月 357円  
「男女共同参画白書」の概要版。

『若者ライフスタイル資料集』

(株)生活情報センター編 (株)生活情報センター  
2002年10月 15540円  
パソコン、金銭感覚、人間関係、結婚など、男女差があったり、なかったり、大変興味深いデータが並ぶ。

〔雑誌〕

『共同参画21 No.4』

内閣府 ぎょうせい 2003年1月 600円  
今号の特集は、学術・研究分野における男女共同参画。

『女性情報 02年12月号』

パド・ウィメンズ・オフィス 2002年12月 3201円



特集されています

『現代思想 2003.1』

青土社 1300円

特集：トランスナショナル・フェミニズム～女性の再配置

S・ウォルビー、J・アッカー等の国外の論者の他、上野千鶴子「『ジェンダーの正義と経済効率は両立する』か?」、大沢真理「日本の福祉国家とジェンダー」、足立真理子、竹村和子等のそうそうたるメンバーの論文が並ぶ。グローバリゼーションの最新局面でおこっているフェミニズムの位相を探っている。



『SEXUALITY Jan.2003』

エイデル研究所 1500円

特集：思春期の性と自己決定

喜多明人、寺尾由美、村瀬幸浩など。



『環-歴史・環境・文明 vol.12』

藤原書店 2940円

特集：近代化の中の「ジェンダー」

I・イリイチ「『ジェンダー』とは何か」、青木やよい「エコロジカルフェミニズムとは何か」など。イリイチの論述は、死の一週間前に書かれた絶筆である。エコロジカルフェミニズムの特集。



『Jurist No.1237』

有斐閣 2200円

特集：ジェンダーと法

辻村みよ子「男女共同参画社会基本法後の動向と課題」、寺尾美子「ジェンダー法学が切り拓く地平」、戒能民江「ドメスティックバイオレンス」、山下泰子、宮地尚子など、ジェンダー視点からみた法学における論点、びっしり並んでいる。



## ミニコミ・ミニコミ

ウィメンズブックストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です

「あごら」 女による女のBOC出版部 2002年11・12月  
279号 特集DVⅡ DV支援の現場から 1139円/280号  
長谷川テルを辿る旅 977円

**New** 「あなたとわたしと性」  
性を語る会 2002年3・6・9・12月 315円

61号 新春トークより「環境ホルモンと性・生殖」/62号  
春のシンポジウムより「10代にしろせたい!STD(性感染症)/  
63号 夏のシンポジウムより「教育基本法改正(悪)と障害をも  
つ子どもの人権」/64号 第13回性教育実践講座「性教育  
最前線!生命操作と性・生殖

「季刊i・MA 第9号 特集:安心で美味しいものを見つけました」  
い・ま編集部 2003年1月 480円

「FLCニュースレター No.45 特集:予防啓発部門 Q&A」  
女性ライフサイクル研究所 2003年2月 315円

**New** 「SEAねっと!」  
NPO法人シーン 2002年9・2003年1月 210円

No.3 「思春期のジェンダーフリー教育実施事情について」遠矢  
家永子/No.4 2月1日は「非暴力」をテーマにSEANでつな  
がろう!

「女たちの21世紀」  
アジア女性資料センター 2002年7・10月1260円

No.31 特集:ジェンダーから見る「持続可能な社会」/No.32  
特集:点検・法とジェンダー平等と女性の人権保障はどこま  
で進んだか?/No.33 特集:反戦を超えて-「平和」を創る  
フェミニストたち

「女のためのクリニックニュース」  
ウィメンズセンター大阪 2002年11・12・2003年1月 420円

No.211 女と健康フェスティバル1月25日・分科会①「DV  
法ができてから…」②「セクシュアリティと女の暮らし方」/  
No.212 ③ 「女のクリニックに求めるもの“女性専門外来”  
から考えること」④「話そう・聞こう・思春期の性と生」⑤  
「更年期からのからだの変化～会話レス・セックスレス」/  
No.213 子どものいない人生を考えるセミナーへのお誘い

「季刊女も男も No.94 多様なセクシュアリティを考える」  
労働教育センター 2003年1月 930円

「GAZETTE 78号 FCT25周年記念国際フォーラム メディ  
ア・リテラシーと市民のエンパワーメント」  
NPO法人FCT市民のメディア・フォーラム 2002年11月 840円

「くらしと教育をつなぐWe」  
フェミックス 2002年12・2003年1・2-3月 680円

No.108 特集:ジェンダーと婦人科医療/No.109 特集:  
ジェンダーと教育/No.110 ドメスティック・バイオレンス

「月刊家族」 家族社 2002年11～2003年2月 315円  
201号 月刊家族200号記念読者の集い/201号 「普通の家  
庭がよかった」子どもがポツリ-そのときあなたは/203号  
映画監督ビヨン・ヨンジュに独占インタビュー-「密愛」に寄  
せて、新連載・ツガイとフェミ 北原のみり/204号 宇部  
市男女共同参画推進条例のつくり方-「男・女らしさ」「家族」  
「専業主婦」の尊重

「50% No.15 お礼の中から一葉の声が聞こえる、特集:男女  
共同参画社会基本法をめぐる動き 山口県宇部市、千葉県千葉市  
ほか」 NPO法人 女性連帯基金 2002年11月 525円

「ことば 23号 第11回武蔵嵐山ワークショップ、個人研究、新  
書紹介」 現代日本語研究会 2002年12月 2100円

「シネマ・ジャーナル Vol.57 東京国際映画祭特集/台湾女性映  
画祭/あいち国際女性映画祭」 テス企画 2002年12月 800円

「職場の人権」 研究会「職場の人権」 2002年9月 840円  
第19号 何がサラリーマンを駆りたてるのか-「働きがい」と  
「働きすぎ」を考える、パネルディスカッション・均等待遇とワ  
ークシェアリング/第20号 アメリカ労働運動の新しい息吹、  
「個人時代」の労働組合

「女性空間 第19号 特集:フランス市民社会のパラダイム変革か?」  
日仏女性資料センター(日仏女性研究所) 2002年4月 1575円

**New** 「女性展望 2003・1(第544号)新春対談:都政から  
区政へ 東京23区初の女性区長誕生、世界女性国会議員比率  
ランキング 日本は衆院121位、参院25位」

(財)市川房枝記念会 2003年1月 480円

「シングルス・ネット VOL.57 5月例会概要「ザ・フェミニ  
ズム」書評報告」 確信犯?シングルの会 2002年11月 263円

「世界女性会議 ネットニュース」  
世界女性会議ネットワーク関西 2002年11・2003年1月 630円  
No.38 ○来年の一斉選挙では女性政策を争点に-高槻・高本  
での小さな試み-/No.39 ○9年ぶりに、日本の男女平等を  
国連が審査

「DVPニュースレター 第14号 平成14年度第2回専門家会  
議『傷ついた子どものケア』ベースは育成的接近」

日本DV防止・情報センター 2002年12月 525円

「東京・強姦救援センターニュース」  
東京・強姦救援センター 2002年8・12月 105円

No.50 センターの電話相談/No.51 電話相談を受けて、  
被害者支援とは、医療施設での被害者支援-北米での取り組み  
と日本の現状

「パワーアップニュース VOL.40 八木正行さん・優子さん  
自然のサイクルに沿った暮らし～農業から見えるもの～」

パワーアッププランニング 2002年10月 315円

「人と人をつなぐ子ども情報誌 るーぶる」  
NPO子ども劇場全国センター 2002年10・2003年1月 1000円

3号 インタビュー 上野千鶴子「選択縁」でやっていく子育て  
/4号 特集:メアリー・ゴードンに聞く 赤ちゃんのチカラ!!

「ひとりから 第16号 現地座談会:水俣で何が起きてきたか」  
編集室ふたりから 2002年12月 1050円

「ファイト・バック Vol.52」  
性暴力を許さない女の会 2003年1月 525円

☆11月公開講座～大学のセクハラ防止対策の現状と課題～  
☆シンポジウム報告「性暴力裁判とPTSD」

「フィフティ・ネット VOL.7」  
NPO法人フィフティ・ネット 2002年12月 525円

○ジェンダー視点導入のための「バックアップスクールin関西」  
**New** 「フェミニストカウンセリングニュース」

日本フェミニストカウンセリング学会 2002年5・8月 315円  
No.34 体験を変える力に-DV防止法改正に向けて-/No.35  
あれから7年…ハイカラKOBEでお待ちしています!

「ふえみん」 ふえみん婦人民主クラブ 2002年11～2003年1月 210円  
第2674号/2675 希望をグローバル化しよう/2676

「均等待遇の立法化」めざす パート議連/2677 台湾元  
「慰安婦」補償請求裁判判決に控訴/2678 黙ってられない

教育基本法「見直し」/2679 日朝会談以降を考える/2680  
もっと増やしたい女性議員/2681 「ライフハウス友だち村」

オープン/2682 千葉県男女共同参画条例案 骨抜き条例は  
いらない/2683 支援費制度 障害者介助時間に上限!?

「婦人通信」 日本婦人団体連合会 2003年1・2月 300円  
No.533 座談会「輸入食品の安全を問う」/No.534 現代  
病-うつ病・インターネットで助け合う

「Voice」 なくそう戸籍と婚外子差別・交流会  
2002年11-12合併2003年1月 210円

132号 戸籍続柄裁判3周年記念集会・婚外子差別撤廃の背景  
(仏日比較)講演「フランスの家族は今」/133号 第15回口  
頭弁論への傍聴を!

「VOICE OF WOMEN」  
日本女性学研究会 2002年11・12・2003年2月 158円

No.236 ドーンセンターよどこへゆく/No.237 25周年記  
念シンポジウム「女性センターって、いったい何をすること  
ろ?」&女性学年報23号合評会/No.238 「ドーンセンター  
よどこへゆく」その後、人口受精ってだれのもの?

「月刊むすぶ」ロシナンテ社 2002年11・12・2003年1月 各840円  
No.383 特集:NGOな生き方-国際協力の現場から/No.384  
特集:狙われた種子-遺伝子組み換えから在来種をどう守る  
か/No.385 平和への思い-拉致報道から見える差別社会・  
ニッポン

「メンズネットワーク NO.66 特集:第7回「男のフェスティバル」」  
メンズセンター 2002年9月 315円

「れ組通信」れ組スタジオ・東京 2002年12・2003年1・2月 525円  
No.187 ○小説:二人暮らし○高齢化の勉強会/No.188

○恋人関係の中でのDV/No.189 ○「レズビアンだ!」と  
言えるわけ

「わいふ」 わいふ編集部 2002年12・2003年2月 620円  
299号 私の出会った奇人・変人/300号 特集:主婦の現  
状報告-」団塊の世代から平成ニューファミリーへ

「女(わたし)のからだから」 SOSHIREN・女(わたし)のからだから  
 2002年10～12・2003年1月 315円  
 No.204 女と健康国際会議 in トロント 報告(2)、障害者と女性-連動し補完し合う差別そして解放/No.205 リプロダクティブ・ヘルス/ライツに暗雲-ブッシュ政権の暴挙がここにも!、「ラブ&ボディBOOK」絶版問題のその後-愛知県の動きなど/No.206 優生手術の実態解明と謝罪を求める要望書賛同人になってください/No.207 ホームページついに開設  
<http://www.soshiren.org/>、攻撃にさらされる女と若者

<単発もの>

ビデオ「バーバラ・リーがやって来た 2002年8月訪日ドキュメント」  
 20分 バーバラ・リーさんを日本に呼ぶ会 2002年 3150円  
 ビデオ「パークレー市民がつくる町」  
 35分 (有)マブイ・シネコブ 2002年 個人5000円、団体12000円  
 「婦人しんぶん 縮刷版 ③ 1988～1994」  
 「女のしんぶん 縮刷版 ④ 1995～2001」  
 日本婦人会議 2002年 2冊セット価格6300円  
 「男女平等免許皆伝～性差にとらわれないあなたを目指して～ダイジェスト問題集」  
 人材育成技術研究所 (株)香科舎 2002年 2500円  
 「男女平等免許皆伝～性差にとらわれないあなたを目指して～完全版・法律編 添削シート付 (ネット上の掲示板研修へ)」  
 同年 6000円  
 「男女平等免許皆伝～性差にとらわれないあなたを目指して～完全版・実践篇 添削シート付 (ネット上の掲示板研修へ)」  
 同年 6000円  
 「クイズウルトラ 人権100問 100問分のクイズとイベントの

マニュアル (イベント用音源サンプルCD付)  
 同研究所 同年 6000円  
 「ワンデイホームステイ 歩いていける世界の旅」  
 同上 同年 2500円  
 「復刻 私の国会報告 市川房枝」  
 (財)市川房枝記念会 1992年 2854円  
 「女性参政資料集 1999年版 全地方議会女性議員の現状」  
 (財)市川房枝記念会 1999年 2415円  
 「女性参政50周年記念 女性参政関係資料集」  
 同会 1997年 2940円  
 「女性優位職業の将来-OECD加盟国の現状-」  
 OECD著 (株)カネカリサーチアソシエイツ 2002年 2940円  
 「国連・女性・NGO-活動の手引き-」  
 国連NGO国内婦人委員会編 1997年 1470円  
 「京都子連れ パワーアップ情報 NO.5 子どもの医療・相談機関特集号 part.1」 NPO法人 子育て支援コミュニティおふいす  
 パワーアップ 2002年 1260円  
 「キャンパス・セクシュアル・ハラスメント 対策の次段階をめざして 第7回全国集会記録集 基調講演:角田由紀子弁護士」  
 第7回全国集会記録集編集委員会編 2002年 840円  
 「聴こえますか 子どもの思いと声 虐待防止ハンドブック 保育園・幼稚園編」 大阪保育子育て人権情報研究センター 2002年525円  
 「女性のための創業マニュアル～子どもと歩む起業への道」  
 (株)マザーネット 2002年10月 525円  
 「ジェンダーフリーで綴る NPO発信レポート かえこのちょっと言わせて」 no.1・no.2 NPO法人SEAN 2003年1月 各420円  
 「SEAN G-Freeプログラム『思春期へのおくりもの』」  
 NPO法人SEAN 2002年12月 1050円

# HOT・FILE

会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください

## 大阪で 「Women In Black」

中川加代子 (女たちのピースアクション)

29人がメッセージを書いた紙やロウソクを持って、黒い服で黙って立っている…。ほとんどの人の顔がこっちに向き、歩きながらメッセージを読んで通っていく…。

2月6日夜、大阪で初めての「Women In Black」をしました。「Women In Black」は、1988年、パレスチナの人たちの蜂起を支援するイスラエルの女たちが黒い服を着て黙って街角に立ったのが、始まりです。黒衣と沈黙で、静かに戦争と暴力に反対する行動スタイルは、その後、紛争地を中心に世界各地に広がり、東京・福岡でも定期的に取り組みられています。9・11以降、「黙ってられへん」女たちが集まり、思いのある人ならだれでも一人でも参加できる反戦行動をいろいろやってきました。今年、この「Women In Black」を続けます。ぜひ、一緒に立ちましょう。



毎月第1木曜日：午後7～8時 (3/6、4/3、5/1、6/5、7/3、8/7、9/4、10/2、11/6、12/4)  
 場所：JR大阪駅東口 (御堂筋側出口) から、阪神デパート方向へ向かう広場 (USJ行きのバス乗り場が前にある)

## '03 女性と政治キャンペーン フェミニズムの視点で、政治参画を

### 「'03 女性と政治キャンペーン」呼びかけ人

山下清子 (とやま女性政策研究会)

今年は「第15回統一地方選挙」の年である。私は、女性議員を増やすために、他の団体とともに全国規模の「03女性と政治キャンペーン」を呼びかけている。一人一人の力は小さいが、全国ネットを組むことにより勇気が出る。前回の「99女性と政治キャンペーン」では報告書を作成したので、全国の選挙状況が見え、ネットワークが広がった。

保守的な富山で活動が続けているが、女性学やフェミニズムの意義はなかなか理解してもらえない。居住地の富山県高岡市では、1995年の選挙で県議・市議とも次点という経験をしている。次の選挙でなんとか、県議・市議ともに当選させることができたが、無所属、市民派、女性ネットという選挙体制は、とても難しい。

みなさん、自分の住んでいる都道府県の動きをチェックしてみてください。

元気なところはキーパーソンとなる女性 (フェミニスト) がいて、活動も活発である。ぜひ、アクセスしてほしい。

### 女性と政治キャンペーン 連絡先

- TEL/FAX 06-6355-7140 (NPO法人フィフティネット)
- TEL/FAX 089-924-2485 (議会に女性をおくる会)
- TEL 042-592-5267 (全国フェミニスト議員連盟)
- FAX 042-594-2313
- TEL/FAX 0766-23-1054 (とやま女性政策研究会)

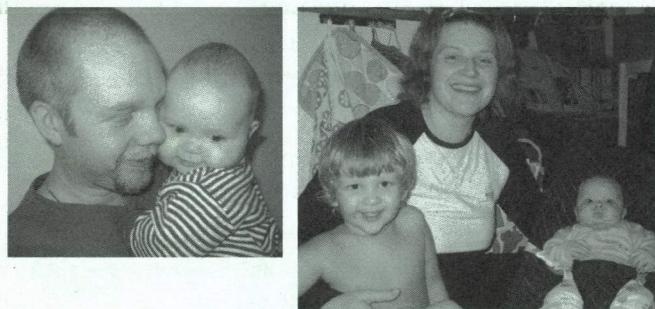
## 特集 &lt;スウェーデン便り&gt;

## 『結婚して子ども?—今時の若い世代は』

レグランド塚口淑子 (ストックホルム大学研究員)

法律婚を経ずに同居生活をするカップルはヨーロッパ諸国や北米などでは一般的である。スウェーデンではこれら非婚姻同居をサムボ(文字通りいっしょに住むという意味)とよび、1960年代の終盤から一般化した。現在、法律婚と同時に同居を開始するカップルは例外的で、通常、男女がカップルとなり、結婚にいたる場合でも、サムボ関係からはじまる。経過的には、まず、週末をいっしょに過ごすことから始め、徐々に一緒に過ごす時間が長くなるということである。最終的にはどちらかのアパート、もしくはより広い住まいをみつけて本格的な共同生活をはじめ。ストックホルムでは現在、住宅難でアパートを見つけるのは至難の業であるが、こういったカップルが空いている部屋を又貸しをするので、それらを探すのが一法だ。彼らは関係がこわれた場合の用心に、ちゃんと戻る場所を一時期、キープしておくからである。

また、北欧では子どもができて結婚せず、サムボ関係を続けるカップルも珍しくない。ちなみに最近行なわれた「新世紀の家族と労働に関する意識調査」では対象となった若者の90%近くが、設問「子どもができてサムボを続ける」に肯定的な回答をよせている。なかでも女性の肯定率が男性よりも高いのは興味深い。じっさい、スウェーデンでは、第一児として生まれる子どもの3分の2の両親は非婚関係にある。その場合、子どもは統計上、婚外児となるが、それイコール単身親(配偶者なしの非婚女性)の子を意味しない。統計によると単身親世帯は総世帯数の5%(女親世帯4%、男親世帯1%)にすぎない。



ではスウェーデンでは今やサムボが「常識」なら、結婚は過去のものとなったのであろうか。答えは否である。上記調査を行なった人口統計学者のエヴァ・バーンハードによると、サムボ関係が長く続くと、いずれは法律婚に至るのだそうだ。結婚に踏み切る最大の理由は「世間に自分たちの関係が<本物>であることを示すため」と、「二人の関係を長期的に安定したものにしたいから」があげられている。事実、サムボ関係の解消率は法律婚カップルよりも高い。

つぎに結婚するにあたり好ましくない理由についても質問されているが、「経済的な理由」と「子どものため」については、回答者の3分の2が「結婚するべきでない」と回答している。しかし、経済状態が良好であったり、子どもが出来た場合、結婚に踏み切る場合が多くあることも事実である。とはいえ、いずれの場合も、収入額で相手を選択したり、結婚する手段として子どもをつくるのではない。両方とも結婚に踏み切る条件というより、子どもを一緒につくるほど、二人の関係は真面目なものであり、また、家計の見通しが明るいのは、家族として安定した生活を営むのに好条件とみられるからだ。

ようするにスウェーデンの男女にとっての結婚は、理想的な人生入手のための「切符」ではなく、二人で時間をかけて築き上げた絆の「証し」なのである。サムボ関係に入るのは好きな人と一緒にいたいからで、結婚が直接の目的や前提ではない。

ようするに「結婚」そのものは絶対的な社会的価値を持たず、する、しない、何時など、自分のライフスタイルに合わせて決めればよいわけだ。ここに住んでいて気持ちがよいのは、誰も結婚しない理由とか、子どもを何時つくるのかとなど、たずねないことだ。ここに住む人たちは異性間恋愛を経て結婚、それから子どもという規格化された人生に30年前に別れをつけ、自分にあったよりよい生き方の模索を始めた。法律婚の減少、サムボの普及はその具体例である。

だから離婚も「×;バツ」のように、社会的なステイグマを意味しなくなった。昔堅気の人たちがあまりにもイージーすぎると嘆くくらい、誰に遠慮することなく、別れと出逢いを繰り返させる。

それというのも、女性も就労し一生を通じて生活給があることが大きく関連していよう。高齢者・児童福祉制度が整備されているゆえとはいえ、仕事のある人間は強い。自立経済は生き方の選択圏を大きくするからだ。

特記すべきは1990年代以来、低迷状態であった出生率が2002年には増加したことである。正式雇用にある女性が最も多く出産しているのは、少子化に悩む他先進諸国にとって今後の政策の示唆となろう。

## レグランド塚口淑子さんプロフィール

1966年よりスウェーデン在住。

現在、ストックホルム大学スウェーデン社会研究所研究員。



ウィメンズブックス

# WBからの風

『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです

## ウィメンズブックストア5 11・12・1月ベストセラーTOP

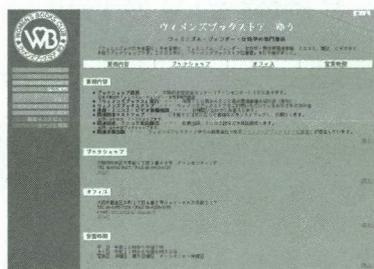
1. **NHKブックス950 男女共同参画社会をつくる**  
大沢真理著 日本放送出版協会 1018円
2. **ジェンダー・フリーは止まらない！  
—フェミバッシングを超えて—**  
上野千鶴子/辛淑玉著 松香堂 945円
3. **ジェンダーがわかる**  
AERA編集部 朝日新聞社 1260円
4. **男女共同参画の視角と誤算 (インパクション131)**  
インパクト出版会編・発行 1260円
5. **フェミニストカウンセリング研究 Vol.1 ⑱**  
フェミニストカウンセリング学会編 新水社 1890円

### ご注文メールアドレスが新しくなりました

新アドレス: [wbs-yuu@m7.dion.ne.jp](mailto:wbs-yuu@m7.dion.ne.jp)  
(当分の間は旧アドレスも使えます)

### ホームページが新しくなりました

新URL:  
<http://www.h4.dion.ne.jp/~wbs-yuu>



### ■「ウィメンズブックスクラブ」入会のご案内

入会は随時受け付けています。何月に入会されても年度内の「ウィメンズブックス」を全号お送りいたします。下記口座に会費をお振込みください。詳細は店舗または事務所にご連絡ください。

#### <特典>

- 『ウィメンズブックス』を、年4回お届けします。
- 送料の割引があります。
- 会員の方には、入金確認前でも本をお届けいたします。
- 「ウィメンズブックスクラブ」主催行事の参加費割引などもございます。
- 会員の方が関係されているミニコミ等を店舗で委託販売いたします。
- 年会費 (年度は4月から翌年3月・入会金は不要です)
 

個人会員	3000円
海外会員・団体会員	3800円

 郵便振替口座 00900-5-309395

### ■リスト書籍をご希望の方へ

書籍をご希望の方は、同封の振込用紙の通信欄に書名、書籍代(消費税込み)を書いてお申込ください。下記の送料共でお振込くださいようお願いいたします。

電話・FAXでのご注文もお受けいたしております。

※ リスト書籍以外のご注文もお受けいたしております。  
 ※ 電話・FAX・お手紙でのご注文は「ウィメンズブックストア ゆう」にお申し付けください  
 電話 06-6910-8627 Fax 06-6910-6115  
 E-mail [wbs-yuu@m7.dion.ne.jp](mailto:wbs-yuu@m7.dion.ne.jp)

#### <送料>

個人会員

書籍代(消費税込み)が15000円以上の送料は無料  
書籍代(消費税込み)が15000円未満の送料は一律400円

海外会員・団体会員

別途請求をさせていただきます

### ブックライナー 導入

従来1~2週間かかっていた本のおとりよせですが、取次店に在庫があるときには、3~5日に短縮されます。詳細はお問い合わせください。

### ■原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でおよせください。投稿は会員の方に限らせていただきます。たくさんのご投稿をお待ちしています。

#### <原稿の受付先>

〒534-0025 大阪市都島区片町1-4-2 シャトーテル大手前317  
 NPO法人 フィフティ・ネット 「ウィメンズ ブックス」係  
 Tel・Fax 06-6355-7140  
 E-mail [fifty@triton.ocn.ne.jp](mailto:fifty@triton.ocn.ne.jp)

次号の締め切りは4月20日です(発行予定日5月25日)

### ■メールアドレスをおよせください。

メルマガの準備をしています。メルマガをご希望の会員の方は、メールアドレスをウィメンズブックストア ゆう にまでお知らせください。

### ■編集後記

- ☆2月18日の国会論争によると、いよいよ(?)リプロダクティブ・ライツにもバッシングの波がおしよせたようです。前号の著者インタビューで大沢真理さんが予言していたとおりになりました。
- ☆「品のない本」もますます増えています。別冊「宝島」「まれにみるバカ女」などは最近の一例
- ☆「いきすぎ」として国会で質問が出た、日本女性学習財団発行の「未来を育てる基本の“き”」(210円)。WBS ゆう で扱っています。本当に「いきすぎ」かどうか、手にとって確かめてみて下さい。(森屋裕子)

### ブックショップ/ウィメンズブックストア ゆう

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49 ドーンセンター1F  
 電話 06-6910-8627 FAX 06-6910-6115  
 URL <http://www.h4.dion.ne.jp/~wbs-yuu>  
 Mail [wbs-yuu@m7.dion.ne.jp](mailto:wbs-yuu@m7.dion.ne.jp)  
 火~金:午前10時から午後7時  
 土・日・祝:午前11時から午後6時30分  
 月曜・第5日曜定休 祝日代休あり

### オフィス/ウィメンズブックストア ゆう

〒534-0025 大阪市都島区片町1-4-2 シャトーテル大手前317  
 電話 06-6355-7155 FAX 06-6355-7155

編集協力/NPO法人 フィフティ・ネット  
 電話 06-6355-7140 FAX 06-6355-7140